

ふるさと短信 ● community report
全町あげて古代にUターン

山本郡琴丘町

この夏のある日、琴丘町は町ぐるみ縄文時代に変身した。これは、町の古代文化をしのび、後生に継承すると同時に、ふるさと活性化運動の起爆剤とすべく、全町一体となって企画した一大イベントだった。初代国王（熊谷敏美商工会青年部長）就任に始まり、「夢とロマンの里づくりむけて」のテーマのもとに、縄文しぼり、竪穴住居の復元、土笛の里コンサート、むかしむかしの盆踊り、手作りいかだの大レースとノリにノって、最後は小瀬川グラウンドでの「縄文ペアコンテスト」でしめることとなった。開催期間中、町の特産品、高石野焼土笛、縄文しぼり、メロン、しいたけ、琴丘牛、じゅんさい、佃煮などが好評裡に展示された。

57年の高石野遺跡発掘で、脚光を浴びた土笛は、今や町活性化の主役の一つとして、大きな期待の眼差しが寄せられるに至っている。生活の都市化とともに失われていく文化財の収集や保存をという声もあり、町では「歴史民俗資料館」の建設が進められている。ハイテク技術を駆使して、土器片を手がかりに完成品を復元するなど、全国的にも珍しい展示・公開装置の設置も計画されている。縄文の里のシンボルとして、その名も「縄文の館」が、いよいよ来年4月にオープンの運びとなる。



88°
縄文カ！ニバル・IN・琴丘

故郷の味はいかが

山本郡藤里町

昭和59年からスタートした「藤里町ふるさと会」も、今年で5年目。ふるさとの新鮮な味を会員の方々に直送してきましたが、今年第1回の直送便は、藤里特産のアスパラガス、笹もちに加え、竹の子、ミズなどの山菜、そのほか自慢の藤里牛のバーベキュー・セットを盛り込みました。年3回、ささやかながらみちのく独特の味わいを、日本全国のみなさんに堪能してもらいたいと思っています。そしてただ今、これを機会にどこの米よりも美味しい「アキタコマチ」、一度食べたらこれしかない「アキタコマチ」を、ぜひご賞味いただきたいと、全町あげて努力しております。

〈会費〉年15,000円

〈直送予定メニュー〉

- 第1回（6月）……山菜・野菜、笹もち、しいたけ等
- 第2回（10月）……新米、きのこ、野菜等
- 第3回（12月）……きりたんぼセット、もち、おやき、りんご、白神山地の水等

〈問合先〉藤里町役場農林課事務局

☎ 0185-79-2111



藤里町のふるさと会

おお、いだ、いだ！…酒のサカナ はこれに限るって 山本郡八森町

年々落込み傾向にある、町の基幹産業である漁業の不振挽回策として、昨年10月直径1mの金網いけすをチゴキ燈台沖2.5kmに沈め、その中でヒラメ5,000尾の養殖実験を行って来た。海が荒れてエサ船の出るのが難しい冬期間に、どれほど生存できるかが大きな関心だった。一冬を越したヒラメの生育状況を調べるために、2時間余りをかけての引き上げ作業だったが、浮上とともに見守る人々から思わず「おお、いだ、いだ！」と、喜びの声が上がった。いけすの底一面、褐色のヒラメで一杯だった。ヒラメは早速作業船の水槽に移されたが、約64%に当たる3,222尾が生存していた。大きさにはバラ付きがあるものの、平均体長30センチ、体重275グラムだった。

先に行われた金浦沖での養殖試験が、生存率1%（49尾）でしかなかったことに比べれば、これは大成功と言ってよい結果である。ただ、ほとんどのヒラメに軽い白点病があったため、薬浴治療の後再び養殖試験を続ける予定である。

もうすぐあなたも、晩酌のテーブルで、なにからななまで手作りのヒラメの刺身が堪能できますぞ～。



八森町チゴキ燈台沖

めぐるめぐる・じゅんさいゲーム 山本郡山本町

この夏7月、わが山本町大町商店街は、あふれかえるような人出でにぎわった。新しいイベント「じゅんさい祭り」がスタートしたのだ。

この日午前9時から午後9時まで、歩行者天国として開放された大町商店街通りでは、午前中は「じゅんさいリレー」「じゅんさいつかみ競争」「じゅんさい早食い競争」「どじょうつかみどり」「じゅんさい飛ばし」など、それぞれ自由奔放と言うか、アイデアあふれると言うか、独創的なゲームに町中が沸きに沸いた。時折強い風に見舞われたものの、好天に恵まれたこの日は。朝から大勢の町の人が詰めかけ、思いおもいにゲームを楽しみ「これぞわが町」という感慨にひたった。

午後にはふるさと共和国「じゅんさい王国（共和国なのに王国と言うのはなぜ？ ま、いいか）」建国宣言の後、国王・王妃・閣僚が、なんとあの森岳駅まで全員そろってお出ましになり、入って来る列車のお客さんに袋づめの「じゅんさい」をサービスしたのだ。

ああ、おれも行きたかったな～。



山本町じゅんさい祭り

山本郡八森町 八森町チゴキ燈台沖